



今日のトピック **FRBはFOMCで3月利上げを強く示唆
インフレへの警戒を一段と強める**

ポイント1 債券購入は3月上旬で終了

- 米連邦準備制度理事会（FRB）は1月25日、26日に米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催し、政策金利であるフェデラルファンド（FF）レートの誘導目標レンジを0.00～0.25%に据え置きました。
- 債券購入プログラムについては、2月以降は米国債で毎月200億ドル、住宅ローン担保証券で毎月100億ドルへの買入れ縮小（テーパリング）を行い、3月上旬に買入れを終了する方針を示しました。

ポイント2 3月の利上げを強く示唆

- 声明文では、「失業率は大幅に低下」し、「インフレ率が2%を大きく上回っている」と、雇用、物価のいずれにも強い表現が用いられました。
- また、「FFレートの目標誘導レンジの引き上げが間もなく適切になると予想する」と、次回3月FOMCでの利上げ開始を強く示唆しました。

今後の展開 物価の先行きに注目

- パウエル議長は会見で、価格上昇がパンデミックに関連したもののだけでなく、幅広い商品やサービスに拡大していることを指摘し、労働市場の改善を支えるためにも物価安定に強く取り組むと述べています。
- 26日の米国市場では、FOMC後に株式市場は下落、債券利回りも上昇（債券価格は下落）し、株安、債券安となりました。3月の利上げ開始が示唆されることは市場の想定通りでしたが、声明文、会見ともにインフレへの強い警戒感が目立ち、金融緩和縮小への懸念が続きました。
- 3月利上げの可能性が高まったことで今後の金融政策の焦点は利上げとバランスシート縮小のペースに移ります。金融政策の先行きを見通す上で、物価の高止まりが解消に向かう時期に注目が集まります。

【政策金利、長期金利と物価上昇率】



(注1) FFレート、米10年国債利回りは2007年1月～2021年12月。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
 (注2) 物価上昇率は個人消費支出（PCE）コア物価指数の前年同月比。2007年1月～2021年11月。
 (出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【NYダウと長期金利】



(注) データは2019年1月1日～2022年1月26日。 (年/月)
 (出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2022年1月26日 IMFは世界経済見通しを+4.4%に下方修正
 2022年1月25日 2022年2月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。